

南高図書館だより

2026 年 10 月号
浦和南高校図書館

図書委員のおすすめ本



『八月の銀の雪』

伊与原新／著 新潮社

『八月の銀の雪』は、科学の視点と人の心をやさしく結びつけた物語集です。日常の中に潜む小さな奇跡や再生の瞬間が丁寧に描かれ、読んでいるうちに自然と引き込まれます。

難しそうに見えて実は読みやすく、静かな感動と前向きな余韻を味わえる一冊だと思います。

『さよならジャバウォック』

伊坂幸太郎／著 双葉社

『さよならジャバウォック』は、人との関わりや社会の問題について考えさせられる本です。登場人物たちが悩みながらも前に進もうとする姿がえがかれていて、読んで行けば行くほど続きがとても気になります。

ただ面白いだけではなく、「人とのつながりって何だろう」と考えさせられる作品です。



『否定しない習慣 いつも「いい人間関係」の人がやっている』

林健太郎／著 フォレスト出版

この本を読んで、相手の意見をすぐに否定しないことの大切さについて考えさせられました。私たちは普段、無意識のうちに相手の話を否定してしまうことがありますが、それによって人間関係がぎくしゃくしてしまうこともあります。この本では、まず相手の考えを受け止める「否定しない習慣」が、人との信頼関係を築くうえで重要だと説明されています。内容は難しすぎず、学校生活や友人関係にも当てはめて考えることができました。人と接する機会の多い学生にも役立つ一冊だと思います。ぜひ読んでみてください。

図書館からのお知らせ

◆さいたま市図書館コラボ企画◆

第9回おすすめ本の交換展示！ 浦和南高校⇄武蔵浦和図書館

高校生と図書館員が思いをこめて作った POP を交換するイベントです。



展示期間 令和 8 年 10 月 6 日(火)から 10 月 23 日(金)まで
※武蔵浦和図書館では 10/25(日)まで

展示場所

南高図書委員の POP → 武蔵浦和図書館に展示

武蔵浦和図書館員の POP → 南高図書館に展示



＼POPと一緒に本も展示しています。ぜひ見に来てください！／

さいたま市図書館ホームページ※にも今回のイベントについて掲載されています！

※URL: <https://www.lib.city.saitama.jp/contents?5&pid=7324>





新着図書PICKUP

9月に新しく入った本

知識の本

おもしろい羊毛の本

野津山ここのつ／編著 スタジオタッククリエイティブ

羊の毛から糸を紡ぐ方法から、紡いだ糸で楽しむ織物や編み物まで。羊毛から広がる世界を、羊毛の魅力と共に紹介する。



江戸時代流行大全

堀口菜純／著 淡交社

江戸時代には一体何が流行ったのか？ 当時の人々が熱狂したブームを、ファッション・グルメ・ライフスタイルに分けて紐解く。

なぜ私たちはいつも時間に追われるのか

出口剛司／著 SBクリエイティブ

効率化が進んでも、なぜか忙しさはなくなる。常に時間に追われる現代社会の「忙しさ」という病理を、「加速」というキーワードで読み解く。

クマに出遭ってしまったら？

山崎晃司／編著 PHP研究所

都会にもクマが現れるようになった昨今。被害を減らすためにはどうすればいいのか？ クマと出遭わないための手段、クマと出遭ってしまった時の対応方法などを事例と共にまとめる。

小説・文学



ギャルにひかれて寺マルシェ

宮島未奈／著 KADOKAWA

悪友の光司に誘われ、寺に埋めたカードを掘り起こすことになった英介。偵察のために行った〈寺マルシェ〉で、ギャルメイクで法話を行うかつての同級生に出会う。大人たちの痛快青春やり直しストーリー！

先生が終わらない

額賀滯／著 集英社

一人の教師の過労死をきっかけに始まった、学校の働き方改革。部活動の縮小に、生徒や保護者からは反発も上がるが…。教育現場の理想と現実と迫る、学校変革小説。

正義の銃弾 刑事葛城

中山七里／著 徳間書店

暴力団とトクリウの銃撃戦で、一人の警察官が死亡した。その死に疑問を抱いた警視庁捜査一課の刑事・葛城は、新宿署刑事課の刑事・紅島と共に事件の真相を追う。警察×心理ミステリー。

夜の海をゆく人よ

佐原ひかり／著 幻冬舎

婚約者は、通り魔から妊婦をかばい、〈英雄〉として死んだ。むつみは、彼の弟と共に暮らしながら、亡き彼をなぞるように日常の中で「善いこと」を実践していく。ほろ苦くも優しい、再生の物語。



【コラム】南高司書の部屋

なぜ本を読むのか？

10月27日(火)～11月9日(月)は読書週間です。第1回目の読書週間は、何と、終戦まもない1947(昭和22)年に行われました。以来、順調に回数を重ね、今年で80回目を迎えます。

改めてその読書週間に考えてみます。なぜ、本を読むことが勧められるのでしょうか。

本を読むと、「知識がつく」「語彙力が上がる」「想像力が豊かになる」「読解力が身につく」…等、読書の効能については、ネットで検索するだけでもいろいろ出てきます。が、そんなのしゃらくさ～い！ 何で本を読むのか、って？ それは、**楽しいからに決まっているでしょう！！**

本を読むのって、とっても楽しいことなんです。本当に面白い本に出会えると、時間を忘れます。早く次が読みたくて、ページをめくる手が止まらない。明日、朝早く起きなきゃいけないのに、どうしてもこの先が気になって、ついつい夜更かしをしてしまう。そうして読み終えた後には、しばらく余韻で動けない……そんな本に出会えた時は、本当に幸せですし、これ以上の娯楽はない！と思います。はるか昔、『源氏物語』に熱中して、「妃の位も何にかはせむ」と言った、菅原孝標女の気持ち、私はよく分かるなあ、と思ってしまいます。

この最高の没入感と感情体験を味わえないのは、とっても、もったいない！

なぜ本を読むのか？ ——それは楽しいから。読書は、最高の娯楽です！

いやいや～そんな大袈裟な、とか、本を読むのは苦手だよ、とか。そう思う人ほど、一冊でもいい、時間を忘れる体験ができる本と出会えたら、と願ってやみません。

読書の秋。本を読む楽しさを知ってみませんか？



「高校生の読書調査」への回答ありがとうございました

9月4日(金)～9月30日(水)の期間で実施した、「高校生の読書調査」にご回答いただき、ありがとうございました！

最終的に、全校生徒958人中、**650**人にご回答いただき、回答率は約**68**%でした。

この調査は、高校生の読書活動の現状を把握し、子どもの読書活動の推進に向けた取組に役立てるため、毎年実施しているものです。

いただいた回答は、これから「令和8年度高校生の読書調査結果」としてまとめられ、さいたま市のホームページで公開されるほか、子どもの読書活動推進に向けた取組や施策を検討する際の参考となります。

「高校生の読書調査」は来年以降も実施されます。その際には、また回答へのご協力をお願いします！